

瀧谷山報

通巻185号
[令和7年1月発行]

【今後の当山行事予定】

初不動 大法会 1月26日

御本尊御開扉大護摩供〔本堂〕
時刻は下記の表に記載

大般若経転読付大護摩供〔本堂〕
午前11時30分

瀧不動堂護摩供〔瀧不動堂〕
午前9時頃～午後3時頃(瀧不動堂にて山伏にお尋ねください)



節分会 2月2日

開運福豆まき式〔境内特設会場〕
〈第1回〉午前11時 〈第2回〉正午 〈第3回〉午後2時

節分会 厄除けのご祈祷〔本堂〕
時刻は下記の表に記載

如意宝珠のお授け〔客殿内特設道場〕
午前9時～午後4時



迎春期間のお護摩祈祷(2月16日まで)

| | 午 前 | | | | | | 午 後 | | | | |
|-------|-----|----|-------|-----|--------|--------|-------|-------|----|-------|----|
| | | 7時 | | 10時 | | 11時30分 | 1時30分 | | 3時 | | |
| 平日土祝 | - | 7時 | - | 10時 | - | 11時30分 | 1時30分 | - | 3時 | - | - |
| 日曜日 | - | 7時 | 9時30分 | - | 10時30分 | 11時30分 | 1時30分 | - | 3時 | - | - |
| 1月22日 | - | 7時 | - | 10時 | - | 11時30分 | - | - | - | - | - |
| 初不動 | 6時 | - | 9時30分 | - | 10時30分 | 11時30分 | 1時30分 | 2時30分 | - | 3時30分 | - |
| 節分会 | - | 7時 | 9時30分 | - | 10時30分 | 11時30分 | 1時30分 | 2時30分 | - | 3時30分 | 5時 |

花まつり 4月1日～8日

灌仏供養(甘茶かけ)〔寺務所〕午前9時頃～午後4時頃

日々のお護摩祈祷
(2月17日以降)
土日祝 午前7時 10時 11時30分 午後1時30分 3時
平日 午前7時 10時 11時30分

交通安全祈願
(車のご祈祷)
午前9時より午後4時 毎時0分・30分
毎月第4日曜日、2月2日前後(豆まき舞台設営・解体の間)は交通安全のご祈祷はありません。

月例祭
(毎月第4日曜日)
御本尊御開扉大護摩供 午前6時 10時 11時30分 午後1時30分 3時
瀧不動堂護摩供 午前9時頃～午後3時頃
月例祭は交通安全のご祈祷はありません。

行事の予定は変更になる場合がございます。
詳しくは瀧谷山公式ホームページにて随時
ご案内いたしますので、来山前に今一度
ご確認ください。



[令和7年1月発行 通巻185号]

●発行所：瀧谷不動明王寺
〒584-0058 富田林市彼方 1762
電話 0721-34-0028 振替 00930-5-17704
●発行人：荒谷純榮 ●編集人：荒谷純榮

六十年も前に作られた『遠くへ行きたい』の曲は、哀愁を誘う歌詞と旋律もあいまって多くの人に今なお歌い継がれている。

知らない街を歩いてみたい
どこか遠くへ行きたい
知らない海をながめていたい
どこか遠くへ行きたい

遠い街 遠い海

夢はるか 一人旅

(作詞 永六輔)

作詞したご当人は大の旅好きとして知られ、出会った人には旅先から戻れば即座に礼状のハガキを書いたという。旅のもらす効能に浴した人だからこそその温かな振舞い。

かつては旅先に関する情報も限られ、直接当地に行かねばわからぬことも多かった。それはそれで失敗を生み、思わぬ発見や感動も呼び込んだ。対して今ときは、あらゆる情報を事前に集

なほどに、見知らぬ土地を闊歩する小澤青年。これからの若者にこそ一読を薦めたくなる旅行記、留学記である。

回顧すればみな遠くへ旅を続けてきている。はるか昔、お釈迦さまはお悟りを体得しつつ、常に遊行ゆぎょうの旅をお続けになった。遊行には特定の場所に執着しない意図もあり、お釈迦さまの最期は、旅の途上であった。それから数世紀、唐の玄奘げんざう三蔵法師さんざうは仏典を求めて印度に学ぶこと十六年を費やし、わが弘法大師もまた真理を尋ねて唐の国へと渡った留学生のひとりである。いつの時代も大事なものを探求しては旅に出る。数々の知らない街を訪ね、初めての風景や文物に出会う。もっと遠くに行く異なる言語や文化に直接触れることにもなる。いわゆるカルチャーショックである。この触発することによって大きなエネルギーが生まれ、そのエネルギーが自身の心身を鍛えてゆく動力にもなってゆく。旅という行為そのものに、修行や鍛錬を重ね合わせることは、ごくごく自然な成り行きであろう。

知らない街には、大事な何かを探求できる可能性が秘められている。ものごとや自分を深く見つめる好機をもたらすところともいえる。

めることが可能となり、あるいは現地で検索する光景も日常化した。たとえ検索結果の精度にムラがあろうとも、まずは検索第一、百聞は一見に如かずの諺も変容を余儀なくされている。

決められた行程を筆でなぞるように巡る旅には安定感があり、行き当たりばつたりの旅にはワクワクやドキドキの臨場感がたまらない。どちらにせよ、旅というものは、人間に許された特権のひとつに思える。

「かわいい子には旅をさせよ」という。これはさまざまな経験を積むことが人を成長させる意を含むが、実際に経験を積むには若い時の方がより望ましいこともある。「鉄は熱いうちに打て」というヨーロッパを起源とする格言にも同様の思いが含まれている。

先年惜しまれて世を去った高名な指揮者・小澤征爾氏は若い時に驚くような行動力で旅をしている。『ボクの音楽武者修行』(新潮社)には、若干二十四歳、貨物船に単身乗り込んで渡欧した彼の数年間にわたるみずみずしい青春時代が綴られている。大きな計画性を秘めながら、ある時は繊細に、時には大胆

翻って遠くへ行きたいと感ずることは、決して現実逃避の行動を指すわけでもなく、切迫された末の決断でもない。それは人間に与えられる、広げて開かれた明るい地平、健全なる生き方に通ずる道ではないか。

狭い枠組みの考えの中だけで悶々していると、固定観念や偏見ばかりが増長する。怒りや妬みの感情にも支配されやすくなる。それは人間にとって黄信号が点滅している証拠で、そういう時にこそ旅に行くといい。小さい旅でも長い旅でも、ちょっとだけ遠くへ行ってみる。深呼吸をするようにでかけてみる。気づくと晴れ晴れとした心持ちが戻ってくるはずである。

昨秋、飛行機に搭乗して瀬戸内まで出かけた。弘法大師も往来した穏やかな内海には大小の島々が点在している。日差しを受けて空も海もきらきらと輝くその風景が、お大師さまもご覧になった風光と置いて、わが胸中に一条の光が射すようであった。それと同時に『遠くへ行きたい』のメロディーが静謐せいひつなままよみがえってきた。

瀧谷山に初詣をされて心もあらた、この一年という日々が皆さまにとって実り豊かな旅路となることを念ずる年頭である。

初不動

大般若経転読付大護摩供厳修

1月26日(日)



大般若転読とは…

「大般若経転読」とは大勢の僧侶が集まり、六百巻におよぶ「大般若経」の蛇腹折の経本を、大きく宙に広げるようにして読誦します。一斉にたくさんの経本が開かれ、高い位置から落とすようなダイナミックな動きが見どころの一つです。経本が勢いよく捲られることによって起こる風をその身にうけると長寿がかなう、厄除けになるともいわれています。

節分会

厄除大祈願祭

2月2日(日)



節分会 開運福豆まき式

来る2月2日(日)、瀧谷山では節分会の開運福豆まき式を盛大に執り行います。

節分の行事は宮中の厄除けの儀式「追儺」に由来するとされ、瀧谷山でもさまざまな行事が行われますが、年男、年女の方が華やかに豆をまく豆まき式は、そのハイライトとなります。

当日は特別ゲストの林家染二師匠を始め、大勢の年男、年女の方が豆を撒かれます。お誘い合わせの上、溢れる福をいただきに、ぜひお参りください。

節分当日は混雑が予想されます。お車は8頁記載の誘導図に従い、時間に余裕を持ってお越しください。

開運福豆まき式(境内)

●日時 2月2日(日)

第1回 午前11時

第2回 正午

第3回 午後2時



●令和7年の節分会は、暦の関係で2月2日となります。お間違いないようお参りください。

福豆まき式参加者募集

2月2日の節分当日、開運福豆まき式にて豆をまいていただく年男、年女の方を、募集いたします。当り年に関わらずご応募ください。

参加者には、お護摩祈禱を受けていただき、節分会特別祈願のお札、熊手などのお下がりをお渡しします。また、ゲストの林家染二師匠との記念撮影があります。

開運福豆まき式(本堂)

●日時 2月2日(日)

第1回 午前11時(午前10時集合)

第2回 正午(午前11時集合)

第3回 午後2時(午後1時集合)

●支具料(参加費) 2万円

●お下がり

特別祈願護摩札 熊手

不動力 粗品

記念写真(後日郵送)

●性別不問、ただし

成人に限ります。

各回定員があります。

●お問合せ 寺務所



如意宝珠のお授け

節分当日、意のままにあらゆる願いをかなえんとされる宝物「如意宝珠」のお授けをいたします。

弘法大師は、如意宝珠について「自然道理如来の分身なり」と述べられ、如意宝珠とは、如来のお身体そのものとして、限りない慈悲の心に満ちたものであると説かれています。弘法大師以来、如意宝珠は真言宗最極の秘物とされ、当山でも平素は秘して大切に祀りしておりますが、皆様に如意宝珠の大きなご利益に与かっていただきたいという思いから、一年に一度のみ、節分会に皆様にお授けしております。

お授け後、如意宝珠守を授与いたします。財布などに入れ、肌身離さずお持ちください。

如意宝珠のお授け

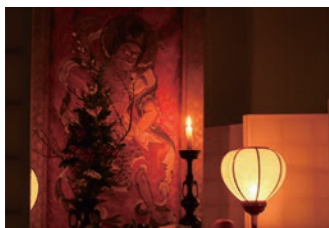
〔客殿内特設道場〕

●時間

午前9時〜午後4時

●志納

1体1000円以上



節分会 厄除けのお護摩祈禱

厄年は、災厄を受けやすく、肉体的、精神的、社会的な節目を迎える年齢です。瀧谷山では、厄年を無事に過ごし、健やかに良い毎日を送れますよう、厄除けのご祈禱をおつとめしております。

厄除けは古来、旧暦で一年の節目である節分までにするものとされ、瀧谷山でも節分当日は、特に盛大におつとめいたします。(厄除けのご祈禱は、節分に限らず一年中お受けいただけます。ご都合の合わない方は、時節にこだわらずお参りください。)

節分当日は、大変多くのご参詣が予想さ



星まつり祈禱のご案内

瀧谷山では、一年の節目である節分の日、「星まつり」と称しまして人々の吉凶を左右する九曜星を供養し、災いを除き福を招くお預かり祈禱をおつとめしております。年齢や当星にかかわらず、同封の用紙にご記入いただき、一年を平穩無事に過ごし、運が開くようお願いしてお申込みください。

節分までにお札をご用意しますので、1月20日までに同封の用紙でお申し込みください。祈禱したお札は後日郵送いたします。

れます。時間に余裕を持ってお越しいただき、ご祈禱の受付は早めにお済ませください。また、お車は8頁記載の誘導図に従って通行ください。なお本堂は伝統建築のため、冬季は冷え込みます。お参りの方は、暖かい服装でお越しください。

厄除けのお護摩祈禱(本堂)
●祈禱時刻 12頁(裏表紙)記載
●ご祈禱料 5000円より

令和7年厄年早見表(年齢は数え年)

| 男性 | | 女性 | |
|----------|---------|-----|----------|
| 平成13年生まれ | 25才 厄年 | 19才 | 平成19年生まれ |
| 昭和60年生まれ | 41才 前厄年 | 32才 | 平成6年生まれ |
| 昭和59年生まれ | 42才 本厄年 | 33才 | 平成5年生まれ |
| 昭和58年生まれ | 43才 後厄年 | 34才 | 平成4年生まれ |
| 昭和40年生まれ | 61才 厄年 | 37才 | 昭和64年生まれ |
| | | 61才 | 平成元年生まれ |

厄年とは…

厄年は古来、星の巡り合わせが悪く、災厄を受けやすい年齢とされています。また、社会的な地位を持ち始める年齢に当たり、仕事で責任が重くなるなど、無理や負担がかかって病気になる年齢、結婚・出産・育児など生活の環境が大きく変化する年齢とも言われています。特に男性の42歳・女性の33歳は本厄と言われる、前後にひびく厄とされています。

星まつり祈禱

●祈禱料 1名1000円

●締切 1月20日

●申込方法

同封の用紙にご記入の上、寺務所または

郵送で受付

●お札のお渡し

寺務所でお渡しの方は2月5日以降、

郵送の方は2月10日以降



星まつりのお札

令和7年九曜星早見表(数字は数え年)

| ○木曜星 | ●月曜星 | ●計都星 | ●火曜星 | ○日曜星 | ●金曜星 | ○水曜星 | ●土曜星 | ●羅喉星 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 大吉 | 半吉 | 大凶 | 大凶 | 大吉 | 末吉 | 大吉 | 半吉 | 大凶 |
| 一白 | 九紫 | 八白 | 七赤 | 六白 | 五黄 | 四緑 | 三碧 | 二黒 |
| 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 18 | 17 | 16 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 |
| 27 | 26 | 25 | 24 | 23 | 22 | 21 | 20 | 19 |
| 36 | 35 | 34 | 33 | 32 | 31 | 30 | 29 | 28 |
| 45 | 44 | 43 | 42 | 41 | 40 | 39 | 38 | 37 |
| 54 | 53 | 52 | 51 | 50 | 49 | 48 | 47 | 46 |
| 63 | 62 | 61 | 60 | 59 | 58 | 57 | 56 | 55 |
| 72 | 71 | 70 | 69 | 68 | 67 | 66 | 65 | 64 |
| 81 | 80 | 79 | 78 | 77 | 76 | 75 | 74 | 73 |
| 90 | 89 | 88 | 87 | 86 | 85 | 84 | 83 | 82 |
| 99 | 98 | 97 | 96 | 95 | 94 | 93 | 92 | 91 |

厄年… 前厄年・後厄年…

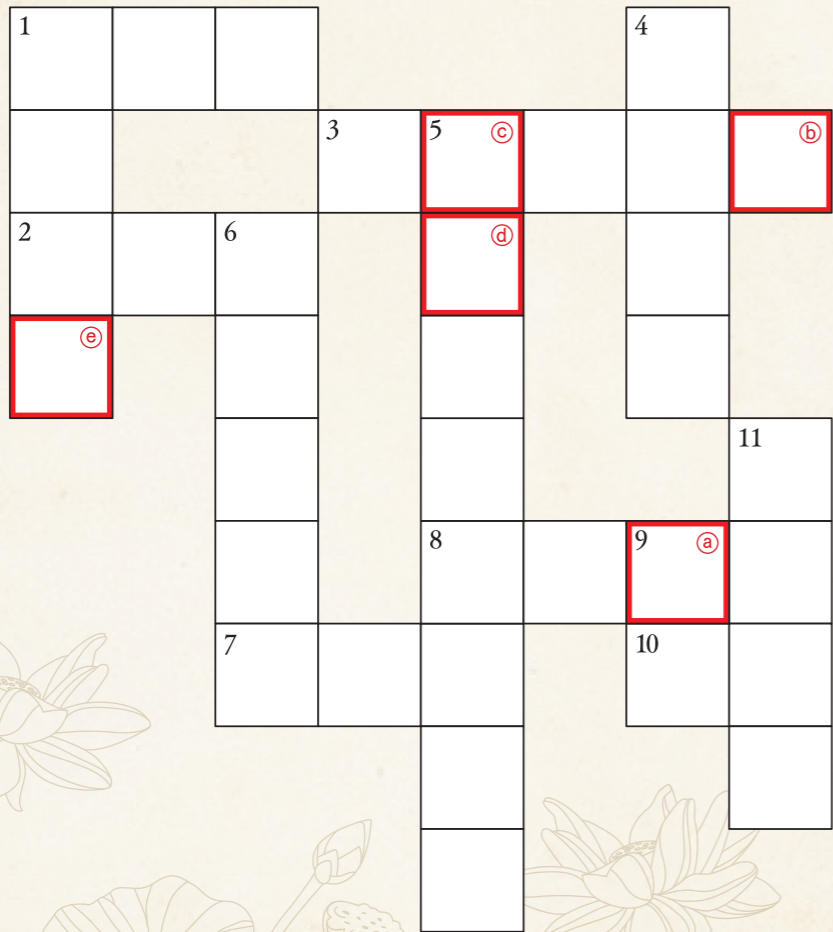
仏教語クロスワード

タテのカギ

- 1 祇園精舎の鐘の声 諸行〇〇の響きあり
- 4 〇〇〇〇仏教の指導者 ダライ・ラマ14世
- 5 瀧谷不動尊のご本尊さまは?
- 6 ゴダイゴによるヒット曲
ドラマ「西遊記」のエンディングテーマ
- 9 極楽に咲いているという、仏教を象徴する花
- 11 臨終の時、仏さまや菩薩さまが迎えに来ること

ヨコのカギ

- 1 般若心経の一節 遠離一切顛倒〇〇
- 2 yogaと書いてなんと読む?
ヒント:正しくは“ヨガ”ではありません
- 3 分別のないこと
- 7 九曜星のうち、特に凶星とされるのは、計都星と〇〇星
- 8 遙か遠く、隔たった所から拜むこと
- 10 サイコロをふって、出た目の数だけ
マスを進んでいく遊び 〇〇ろく



こたえ a b c d e

こたえ合わせは
こちらへ▶



開運福豆・ 新春の縁起物のご案内

節分会に向けて、お不動さまにお供えしました開運福豆を授与しております。福豆は、ご自宅にて小分け袋に入れ豆まきをされたり、節分のお下がりとしてお召し上がりください。

また迎春期間中(2月16日まで)、令和7年新春の縁起物を授与しております。熊手、矢守等の縁起物や、竈の神さまである荒神さまのお札、家中を守護してくださるお不動さまの護摩札など、縁起物を掛け替え、新しいお札に手を合わせると、新年を実感できるものです。どうぞ期間中にお受けください。

開運福豆

● 志納料 1袋300円

令和7年縁起物

● 授与期間 2月16日まで

● 主な縁起物

熊手 矢守 えとみくじ
護摩札 三宝荒神札 等



初不動・節分会 臨時駐車場の案内

初不動(1月26日)および節分会(2月2日)当日は、瀧谷山周辺は大変な混雑が予想され、お車の移動に時間がかかる場合があります。そこで両日は、井上軸受工業様にご提供をいただき、臨時駐車場をご利用いただけます。

臨時駐車場は当山より東へ約1キロ、徒歩約15分です。駐車場にお手洗いはありませんので、当山でお済ませください。



「星まつり」は「星供養会」ともいい、その人の生年によって決まる「本命星」や、その人ごとに毎年変わる「当年星」という当たり星を供養します。これらの星をしっかりとおまつりすることで、星の巡りをよくし、災いを転じて福とするおつとめです。

さて、この「当年星」は9つの天体を巡るの「九曜星」と呼ばれています。九曜星とは、①火②水③木④金⑤土の五惑星に、⑥太陽と⑦月を加えたいわゆる七曜に、更に⑧羅喉⑨計都の二つを足したものです。この羅喉と計都は、多くの方にとって耳慣れないものだと思います。

『大日経疏』は「羅喉、是れ交会の食神なり。計都を正翻には旗とす。旗星、謂わく彗星なり」といい、羅喉は太陽や月と出会って交わるとそれを蝕み隠す神、要は日蝕や月蝕のことであって、計都は直訳すると旗、旗

きながら、ふたたび消えてしまうという様子が不気味であったようです。このような理由で、羅喉と計都は特に凶星とされました。同じく占星関係の『梵天火羅九曜』という書物には、羅喉と計都はいずれも凶星であり、憂い多く、疾病、仕事での不運、財物の破散などさまざまな災厄をもたらすと説かれます。このほかに火曜星も凶星とされており、九曜星のうち火星・羅喉・計都に当たる年は、特に懇ろに星を供養するべきとされてきました。

現代においては一見、星の運行などは日々の生活とは無関係なものと思いがちですが、それでもやはり、良いご縁は本人の努力と、良い星の巡り合わせがあって初めて結ばれるものです。そう考えると、私たちにとって星とは、単なる天体というものを超えた、神秘的な存在なのだと感じます。昔も今もこれは変わらないからこそ、人々は星々に願いを込め、祈りを伝えてきたのでしょう。

のような尾を持つ彗星のことであるとしています。古来、この二つは凶兆の星と考えられていました。



多くの方がご存知のように、日蝕や月蝕は、日々動き続けている地球・太陽・月の三者の位置がたまたま一直線になった時に、一部あるいは全部が隠れて見える現象です。現代では、このように天体の動きや現象について

諸々解明されており、そうした情報に誰しもがアクセスできますが、もちろん昔はそうではありませんでした。『七曜攘災決』という占星書では、羅喉や計都は「常には隠行し見えず」という一文があり、「日蝕・月蝕や彗星とは、空のどこかに存在する、ふだんは隠れていて見えない星のしわざである」と考えられていました。特に日蝕・月蝕については、その隠れている星が「日月に逢えば則ち蝕す(『七曜攘災決』)」、つまり時折不意に現れて、太陽や月を隠してしまうことでその現象がおけると信じられていたようです。

このような現象は、科学が今ほど発達していない時代の人々にとっては未知にして超常的なものとして恐れられていたであろうことは想像に難くありません。彗星もまた同様に、ふだん夜空には出ていない星が、何もないところから急に現れて、尾を引

瀧谷山の四季 11

十二月半ば、いよいよ新年を迎える準備で瀧谷山が慌ただしくなるころのこと。掃けども掃けどもとめどなく舞い落ち続けた落葉がびたりと止まり、山内がしんと静まり返る瞬間があります。寄せては返す大波小波にも風があるように、落葉にも風のような一瞬があるのです。あれだけ溢れた枯葉の山がなくなり、境内は張り詰めたような静けさです。しかし、それはほんの数日のこと。その静かな時が過ぎれば別の樹種の落葉がはじまり、また掃き掃除に追われる日々がやってきます。

動のなかに静あり、静のなかに動きあり。自然の事物も世の中の事々も、大波小波や風はあれども同じ状態が続くということはなく、ひとところに留まり続けるということはありません。好ましいことも好ましくないことも繰り返し繰

り返しながら変化し続け、いつまでも続くことはありません。仏教の説く無常ということについて、さながら瀧谷山の四季が教えてくれるかのようです。さて、十二回にわたってお送りしてきたこのコラムは、これで一旦おしまい。これまでお読みくださり、ありがとうございました。

